

## 自治体におけるオープンデータの推進とその利活用に関する研究ヒアリングレポート：浦安市

**開催日**：2015年12月3日

**会場**：浦安市役所 市民税課

**企画**：社会情報教育研究センター政府統計部会

**参加者**：【立教大学】坂田大輔（社会情報教育研究センター助教）、菊地進氏（名誉教授）、荒井美智江（社会情報教育研究センター事務局）、【明海大学】武田和夫（経済学部教授）、友利厚夫（経済学部講師）、藤野裕（経済学部講師）

### はじめに

社会情報教育研究センター政府統計部会では、各地の自治体におけるオープンデータの推進とその利活用に関する研究の一環として、2015年12月13日に浦安市の小泉和久氏（市民税課）にインタビューを行い、浦安市におけるデータ公開の現状と課題についてお話し頂いた。浦安市はオープンデータとしてデータ公開を行ってはいない。しかしながら、市民公開型地理情報システム（GIS）で公開されている地図のレイヤに使用しているデータを、CSV ファイルや Shapefile<sup>注1</sup>といった二次利用可能な形式（CC BY）で提供するという形でデータ公開への取り組みを積極的に進められていることから<sup>注2</sup>、上記の研究テーマにおける重要な事例と考え、インタビューをさせて頂いた。

小泉氏は、現在は市民税課所属であるが、それまでは GIS を管理する情報政策課で 15 年ほど浦安市の GIS の整備に関わってこられた。加えて、浦安市公開データの積極的な利活用を進めている有志職員による自主的研究グループ、チームウラシマ（URA-SIMA）のリーダーも務めておられる<sup>注3</sup>。チームウラシマは、自己研鑽活動を行う組織として浦安市役所内での承認も得られている組織である。今回のインタビューでは、GIS を管理している情報政策課の取り組みだけでなく、チームウラシマの取り組みについてもお話を伺った。以下では、インタビュー内容を基に、その概要を紹介したい。

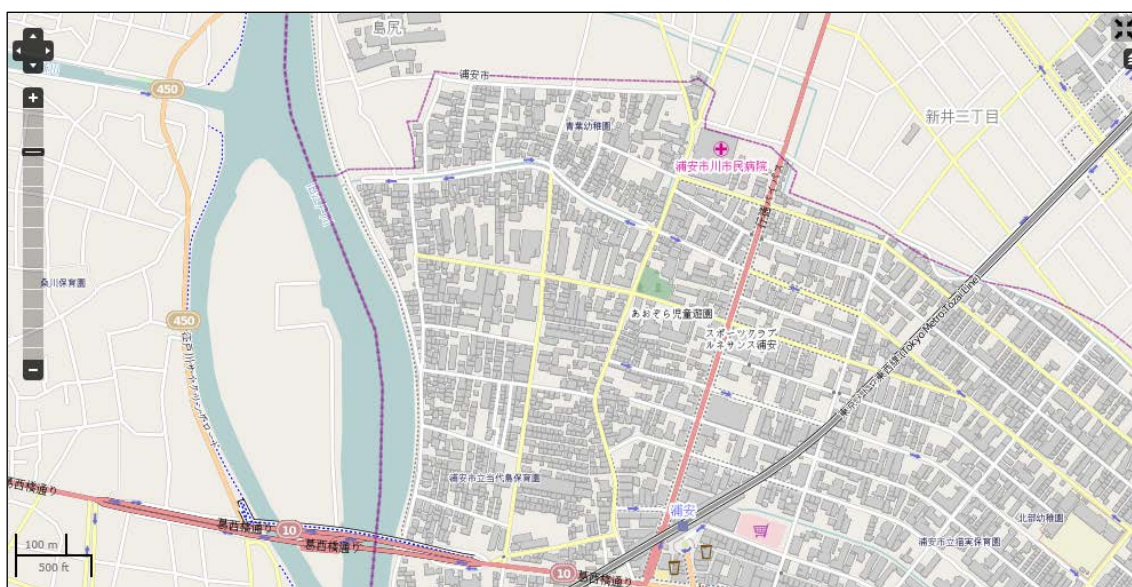
### 現在の取り組み状況

浦安市では以前より GIS（地理情報システム）についての様々な先進的な取り組みが行われていたが、その目的は庁内利用であった。しかし、小泉氏は取り組みを進める中で、浦安市の GIS は誰のものか？ 地域住民の方々に活用してもらうことが GIS にとって最も良いことなのではないか？ という思いが生じてきたそうである。そして東日本大震災が発生した。その際、浦安市役所から情報の発信が行われたが、地域住民の方々やボランティアの方々が欲しい情報・使える情報の提供は、本当はもっと多くできたのではないか？ という反省からその思いは強まり、GIS のオープンデータ化の検討を始めたそうである。

そして議論の末、今年平成 27 年 3 月より、市民公開型地理情報システムで公開されていた地図についてのデータを二次利用可能な形式で提供することが始まった。浦安市役所ホームページ上より、住所情報を

含むデータについては XY 座標付きの CSV ファイルが、それ以外については Shapefile がダウンロード可能になっている。これは現在、情報政策課によって管理されている。データの公開後は公開以前に周囲から懸念されていたようなデータを公開したことによる市政上のトラブルといったものは発生せず、むしろ、利用者側からのアドバイスにより、公開データの質的改善が出来ているとのことであった。データの公開が市民の方々とより良い協力関係を築くことに繋がっているようである。

加えて、小泉氏が中心となって活動している浦安市役所の自主研究チーム「チームウラシマ」により、各所の統計情報を用いた多種多様な地図のレイヤが作成され、「URA-CIMA GIS & オープンデータトライアルサイト」上で公開されてきた<sup>注4</sup>。作成には上記の浦安市役所により公開されている Shapefile や CSV ファイルが活用されている。



Open Street Map における浦安市と周辺地域

浦安市が公開している家屋のデータなどが取り込まれているため、浦安市内部は地図が非常に精密である。

<https://openstreetmap.jp/map#zoom=16&lat=35.66922&lon=139.89095&layers=FB00F>

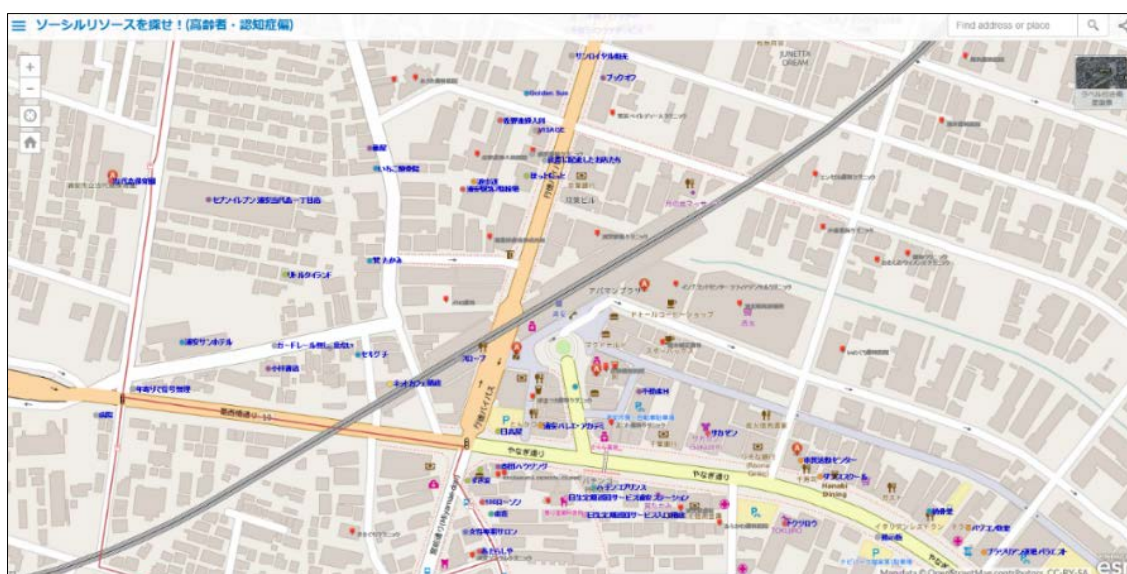
### 取り組みの広がり

データの活用は内外に広がりつつあるとのことであった。市役所内では、防災課が防災マップの更新において地形図を利用したり、学務課が学校案内パンフレット更新に小学校区および中学校区のデータを使用したりするなど、活用が広がりつつある。また、市民税課は税の白書とも言える「税務概要」をエクセルファイルで公開するなど、公開データの範囲も広がりを見せつつある。

市役所外でも、チームウラシマが、高齢者支援課や未来介護プロジェクトと協力し、地域住民の方々とともに、認知症及び高齢者福祉におけるソーシャルリソースを探すマッピングパーティをすでに2回開催している（第3回目の「ソーシャルリソースを探せ!マッピングパーティ」も2015年12月12日に開催

された)。そして、マッピングパーティを通じて収集された情報を使用した地図のレイヤを公開してきている。地図ベンダーが「浦安市の地域課題と解決提案」といったテーマで社員研修を行う際に地図公開データを使用するといった事例もあったそうである。

こうした取り組みを進める一方で、小泉氏とチームウラシマは他の自治体との交流も積極的に行っている。千葉県内の自主研究チームの集まりである「チーム千葉」での勉強会において、地図データの提供・利用についての講演や情報交換を行うといった千葉県内での交流に加え、全国規模のシンポジウム等への参加を通じて、他自治体との情報交換・意見交換も進めているとのことであった。



「ソーシャルリソースを探せ! (高齢者・認知症編)」の画面

マッピングパーティを通じて収集された通常の地図には載らないような情報（ベンチや段差、バリアフリーの店舗情報など）が幅広く掲載されている。浦安市庁内 GIS ポータルサイトで閲覧できる。

<https://urayasu.maps.arcgis.com/apps/PublicInformation/index.html?appid=a754af5be12d4e5d8276e4ba37454a63>

#### 今後の取り組み

現在、各課の保有するデータ詳細や他課のデータに対するニーズを把握する庁内データ調査の準備を情報政策課が進めているとのことである。チームウラシマでも、様々な交流を通じて他自治体や地域住民、大学や研究所等から意見やリクエストが寄せられていることから、今後はこれらを活動に反映させていきたいとのことであった。

小泉氏の説明によれば、防災や防犯等については、防災・減災の分析でいくと、災害弱者（要支援者）の分布の把握が重要であるが、国勢調査は5年に一度であるため、そのデータよりも住民基本台帳のデータの方が精度が高く有用である。こうしたデータは、人口減少に対する対策を議論する上でも活用されることが望ましい。もちろんこれらのデータは個人情報であるため、点のデータをオープンにすることは不

可能だが、丁目別に集計した地図データならオープンにすることが可能となる。税や福祉についてのデータも同様であり、今後はそうしたデータの利用を担当課と情報政策課の支援・協力を受けながら、研究していきたいとのことであった。

今回同行して頂いた明海大学の武田先生より、公会計の問題との関わりで、浦安市が保有する公共財の情報の地図上での利用と公開に関して質問があった。こちらは現在、公有財産台帳の整備に関する問題もあり、今後利用可能となれば地図上での利用も試みていきたいとのことであった。

### インタビューを終えて

情報政策課の支援もあり、チームウラシマのメンバー内ではオープンデータや GIS に対する認識の高まりがみられるようになってきているとのことであった。現在、チームウラシマには様々な課の若手職員たちが所属しているとのことであったので、さらなる波及効果もあると思われる。浦安市役所によるデータ提供の拡充とチームウラシマによる公開データの利活用事例の発信が相乗効果を持ち、様々な方面で二次利用可能なデータの提供と利活用の幅が広がっていくことが今後も大いに期待される。

立教大学社会情報教育研究センター 政府統計部会 坂田大輔

注1 Shapefile は Esri 社によって提唱された地図データのフォーマットで、様々な GIS ソフトウェアで使用することが出来る。

注2 浦安市では、地図データだけでなく、浦安市統計書の背区政提供や住民基本台帳に基づく年齢別・町丁目別人口などをエクセルファイルで提供するという取り組みも以前よりなされてきた。

注3 チームウラシマの最新の活動については、チームウラシマの Facebook (<https://ja-jp.facebook.com/uracima>) から確認できる。また、チームウラシマの活動報告書についても Facebook 上からダウンロードが可能である。

注4 現在では情報政策課が管理する浦安市市内 GIS ポータルサイトで閲覧が可能になっている。

<https://urayasu.maps.arcgis.com/home/index.html>



### 市内 GIS ポータルサイトのトップページ

#### 《参考》

浦安市公式サイト <http://www.city.urayasu.lg.jp/>

チーム URA-CIMA (Facebook) <https://ja-jp.facebook.com/uracima>